

評価シート 様式

取組名	唐津の海辺の魅力を活かした観光振興事業		
実施団体名	唐津みなとまちづくり懇話会	対象地域	佐賀県唐津市唐津湾沿岸
(代表団体名)	特定非営利活動法人 Network Station まつろ	推薦団体名	

① 実施 状況	提案書に記載された取組内容について、当初の計画通り実施されているか	② 実施 体制	平成20年度に行われた取組の実施体制について
	<input type="checkbox"/> 申請時に予定した取組を適切に実施したと判断される。		<input checked="" type="checkbox"/> 実施した取組について、当初の計画通り地域の関係者が明確な役割分担の下、各々主体的に実施されたと判断される。
	<input checked="" type="checkbox"/> 申請時に予定した取組の一部が未実施となっている。但し、予定した主要な取組は適切に実施したと判断される。		<input type="checkbox"/> 実施した取組について、当初の計画通り地域の関係者が明確な役割分担の下、各々主体的に実施されたと判断されるものの、改善の余地が認められる。
	<input type="checkbox"/> 申請時に予定した取組の一部又は全部が未実施となっており、特に主要な取組が実施されていない。		<input type="checkbox"/> 実施した取組について、主体的に実施されたと判断できない。
	(備考・特記事項)		(備考・特記事項)
③ 効果	平成20年度に行われた取組の当初目標の達成状況について	④ 継続 展開 の見 込み	平成20年度に行われた取組の継続展開の見込みについて
	<input checked="" type="checkbox"/> 当初設定した目標を達成し、実施した取組が予定していた成果をあげたと認められる。		<input type="checkbox"/> 実施した取組について、当初の計画通り又は発展的に継続展開が予定され、持続的・効果的に取組が進捗すると見込まれる。
	<input type="checkbox"/> 当初設定した目標の達成には至らないものの、実施した取組が予定していた成果の一部又は全部をあげたと認められる。		<input checked="" type="checkbox"/> 実施した取組について、当初の計画とは一部異なるものの、取組方法の改善等により持続的・効果的に取組が進捗すると見込まれる。
	<input type="checkbox"/> 実施した取組が当初の目標の達成に至らず、予定していた成果をあげることができなかったと認められる。		<input type="checkbox"/> 実施した取組について、当初の計画通り持続的・効果的に取組が進捗するとは見込まれない。
	(備考・特記事項)		(備考・特記事項)

※①において「申請時に予定した取組とは異なる取組が行われた」場合や、③において評価シート作成時点で成果を把握できない場合など、留意事項がある場合に「備考・特記事項」欄に記載する。

評価シート 様式

取組名	唐津の海辺の魅力を活かした観光振興事業		
実施団体名	唐津みなとまちづくり懇話会	対象地域	佐賀県唐津市唐津湾沿岸
(代表団体名)	特定非営利活動法人 Network Station まつろ	推薦団体名	

⑤ 総合評価	○ 複合性、先導性・モデル性、相乗効果・波及効果に関する所見
	マリンスポーツと海に関連したイベント開催により市民の海に対する意識を喚起し、海辺のまちづくりの端緒としてウォーターフロント振興を目指すもので、今後住民参加によるウォーターフロント開発を目指す地域にとってモデル性の高い事業である。
	○ 評価
	<input type="checkbox"/> ①～④及び「複合性、先導性・モデル性、相乗効果・波及効果」の全てにおいて評価が高く、「地方の元気再生事業」の趣旨に鑑みて優れた取組であると評価できる。
	<input checked="" type="checkbox"/> 「地方の元気再生事業」の趣旨に合致した取組であると評価できる。ただし、①～④及び「複合性、先導性・モデル性、相乗効果・波及効果」のいずれかについて改善の余地が認められる。
<input type="checkbox"/> ①～④のうち1以上の項目で評価が低く、「複合性、先導性・モデル性、相乗効果・波及効果」においても特筆すべき点が認められず、「地方の元気再生事業」の趣旨に合致した取組であるとは評価できない。	
	(評価の考え方及び次年度以降に向けた所見)
	本取組は、マリンスポーツを中心とした観光戦略の展開により市民の海への関心を喚起し、海辺のまちづくりの展開をはかろうとする取組であり、ウォーターフロントの自然、文化、マリンスポーツおよび人的資源を総合的に活用し、さまざまな活動の展開により地域振興をはかろうとする点が高く評価できる。今後は、以下に留意しつつ地方の元気再生事業として支援を行うことにより継続的な展開が期待できるものである。 次年度以降については、事業の本格展開に向けて、人材強化、教育との連携を通じて、一般市民と疎遠となっているウォーターフロントの認知度を向上させるとともに、来年度開催予定のヨット競技の世界大会開催の機会を最大限活用することを検討すべきである。また、本来ヨット競技に参加するエキスパート向けと認識されている地域に、青少年や高齢者のビギナーを呼び込むことは、安全性確保のための施設や指導者が不可欠であることから、こうした課題についても関係者と十分な調整を行って進める必要がある。 個別の取組みでは、旅行会社とのタイアップによって販売可能な商品開発につなげる取組を行うとともに、観光客向けPR活動については、本年度のニーズ調査を活用して直ちに自立的に本格展開をはかる必要がある。観光ビジネス創出・人材育成については、いたずらに取組範囲を拡大せずに観光商品の販売実現や小中学校との連携によるマリンスポーツ指導者の継続的な担い手育成の取組みを着実に進めるべきである。観光情報の発信については、コミュニティFMの効果を見直すとともに、観光商品の販売促進に効果の認められる取組みに絞って行うべきである。